《第88回》令和二年十月の作品

〈十月九日（金）於・文京シビックセンター5階D会議室〉

老犬の触れてこぼるる零余子（むかご）かな　（一江）

住み慣れし小名木河岸の今日の月　（清助）

立ち飲みの珈琲旨し鰯雲　（芙紗）

カーテンがまるく膨らむ秋となり　（前歩）

お月はん出てはるといふ京わらべ　（正雄）

爽やかや山鳩のこゑ聞こえきて　（平六）

大山に色なき風の吹きわたり　（奉男）

今は昔百円なりの秋刀魚かな　（貴美）

白萩のこぼれ散りたる苔の庭　（隆治）

金木犀チワワの歩み酔ふやうに　（孝昭）

冠着の峰高くして月の友　（正佳）